

実践団体情報

記入日	西暦 2023 年 1 月 19 日 (2022 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	犬山市立楽田小学校
代表者名	渡辺 孝春
プラン全体のタイトル	Let's プロテクト 犬山 =災害に強い街づくり=
電話番号	0 5 6 8 - 6 7 - 1 0 0 5
メールアドレス	bbc_hiro2001@yahoo.co.jp
実践団体の説明	<p>本校は、児童数 500 人程の中規模校である。犬山市の南東部に位置するが、古墳時代より拓けた場所に位置する。地形的には木曾川の扇状地と東部の山地の縁にあり、それぞれの特徴が校区内に散見できる。例えば東部の山には砂防ダムが各地にある。近くには、砂防ダムが展示されている公園（小野洞川砂防公園）がある。</p> <p>このような地域のリソースを活用し、学年を超えたカリキュラム・マネジメントを行うことで、子どもたちの防災に対する意識を向上させるよう、本校職員と話し合いながら実践をすすめている。</p>
所属メンバー	<p>校長 渡辺孝春 教頭 古市博之 教務 酒井俊輔</p> <p>専科 各務裕久 6年 島田 山下 今井</p> <p>5年 川地 田尻 小島 4年 赤崎 伊藤 好野</p>
活動地域	<p>犬山市立楽田小学校</p> <p>犬山市内小野洞川砂防公園</p>
活動開始時期・結成時期	4月
過去の活動履歴・受賞歴	2021年度防災教育チャレンジプラン実践団体
プラン全体の概要	<p>本校で防災教育に取り組むのは3年目となる。本地区において災害は無縁であるというイメージが強く、危機感は強いわけではない。だが、実際にはハザードマップにより危険な地域は存在しており、一人一人の意識向上は課題と言えた。そこで、学年を超えたカリキュラム・マネジメントの実施することで、少しでも、子どもたちの主体的な意識を高めていくことが、本実践の目的と言える。</p>

プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	計画立案		
5月	実施スタッフとの確認		
6月			5年 社会「低い土地の暮らし」 6年 理科「土地のつくりと変化」
7月			4年 社会「郷土の暮らし」
8月			現職教育
9月	具体案作成	講師依頼	4年 理科「水の行方」
10月		打ち合わせ	5年 理科「台風と防災」
11月			5年 理科「流れる水のはたらきと土地の変化」
12月			6年 総合「楽田アイデンティティ教育」
1月			
2月			学習発表会
3月			

プラン全体の反省点・課題・感想	<p>【小野洞砂防公園見学】</p> <p>本年度で2回目であったが、実施の流れも大変スムーズで打ち合わせも1回打ち合わせて実施することができた。</p> <p>今回も事務所の方は丁寧に解説をしていただき、流れる水の働きをしっかりと理解することができた。</p> <p>【感想】</p> <p>年数を重ねるごとに、回し方も、問題点の把握もスムーズで、プログラムが確立してきたと感じている。</p>
今後の活動予定	<p>効果的に自然災害を学ぶためには、教科横断的な学習展開ができるようにカリキュラム・マネジメントを行う必要がある。本校の児童の防災意識は少しずつ上がってきているように感じる。今後も「持続可能なカリキュラム」として本校に定着するための「システムの構築」を目指したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆地域素材を活用した教科学習（理科・社会）を、教科横断的な学習として4年・5年・6年で行う。 ◆持続可能なカリキュラムにするために、これまでの実績を活用した地域素材をICT教材化しクラウドで活用する。 ◆地域の人材・施設を活用した学習を継続的に行うためのネットワークを構築する。 ◆現職の教員に現職教育としての研修会を行うことと、地

	域連携部会の役割として持続していくシステムの構築を行う。
--	------------------------------

実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2023 年 1 月 19 日 (2022 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	犬山市立楽田小学校
実践番号	1
タイトル	砂防ダム見学
実践担当者のお名前	古市博之

実践にかかった金額	10 万円未満
実践の準備にかかった時間	数日
実践活動を実施した日時	西暦 2022 年 1 月 29 日 8 時 45 分～12 時 15 分
実践の所要時間	3 時間 30 分
実践の運営側で動いた人の人数	4 人
防災教育の対象者の属性	小学生 (高学年)
防災教育の対象者の人数	約 100 人
実践を行った都道府県と市区町村	愛知県 犬山市
実践を行った具体的な場所	小野洞川砂防公園
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	

達成目標	① 地域の教育資源を活用したプログラムの作成 ② 児童の発達段階に応じた視点の設定 ③ 印象に残る学習活動の実施	
どの力を身につけようとしていましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法	<p>【砂防ダム：現地調査をしよう】 小野洞砂防公園・・・愛知県一宮建設事務所が所管する砂防施設を展示している公園を見学する。 借り上げバスを活用して、午前中の4時間かけて見学を行う</p> <p>A組 楽田小出発 8時30分 → 小野洞砂防公園 9時 (見学) 出発10時30分 → 学校到着 11時</p> <p>B組 楽田小出発 9時30分 → 小野洞砂防公園 10時 (見学) 出発11時30分 → 学校到着 12時</p> <p>観察ポイント ① 流水を緩やかにして浸食作用を弱める ② 運搬される土砂をせき止める ③ 力のかかる部分を補強する → 浸食運搬堆積のサイクルを弱める</p>	
得られた成果	<p>2年目となり、解説にも慣れ、運営も順調であった。 昨年はずべてにおいて指揮をしたが、本年度は指揮を若手教員に任せ、運営を行った。</p>	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	<p>事前学習の展開を丁寧に行うことで、本時の見学の意義をしっかりと理解していくことができた。 往復する時間がかかるため、3往復を2往復に変えることで、ゆとりをもって活動ができた。</p>	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	愛知県一宮建設事務所河川整備課事業第2グループ
関係者の説明	
関係者の連絡先	0586-72-1436

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	犬山に校外学習で来られる距離の学校
伝えたい内容	小野洞砂防公園は、学習利用ができること